

議長定例記者会見 会見録

日時：令和4年1月11日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 質疑項目

- 新型コロナウイルス感染症への対応について
- みえ高校生県議会について
- 今年の抱負について
- 新型コロナウイルス感染状況の県の情報公開について
- 知事の年頭あいさつについて

1 冒頭の挨拶

(議長) 新年明けましておめでとうございます。昨年、皆さん方には県議会の行事等にかかる報道につきまして、本当に大変お世話になりました。本年も引き続き、年は変わりましたがよろしくお願い申し上げます。

さて新年を迎えまして、一言申し上げたいと思います。年が明けまして、新型コロナウイルスの新変異株「オミクロン株」の感染が全国的にも急増しております。県内においては、第6波が襲来したと思われる状況となっております。8日には「感染拡大防止アラート」が発動されました。県民の皆さまにおかれましては、マスク着用や手洗いなど基本的な感染予防策の再徹底や少人数での会食などのご協力をよろしくお願いいたします。感染力が極めて高いと伺っておりますので、議会運営にあたりましては、状況の変化にも的確に対応しつつ、細心の注意を払って臨みたいと思っております。

さて、いよいよ1月18日から令和4年定例会が開会いたします。2月17日からは、2月定例会も始まります。ここでは、令和4年度当初予算や「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」および「みえ元気プラン（仮称）」についての審議が中心になろうかと思います。また、昨年9月に就任された一見知事が編成をされます初めての当初予算となります。新型コロナウイルス感染症対策、さらには災害対応等県民の安全・安心の確保を最優先としつつ、観光をはじめ県内産業の一層の振興に尽力されるという知事の決意のもと、編成されると考えております。全議員が、本会議、委員会等を通じまして、当初予算や「みえ元気プラン（仮称）」などの精査をし、活発に議論ができますよう、今日同席しております副議長とともに、しっかりと議会運営に当たってまいりたいと思っております。

令和4年は、議員任期4年間の最終年を迎える年になります。全議員がしっかりと職務に精励したいと考えておりますので、引き続き皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今年最初の記者会見でもございますので、隣の副議長からもお願いしたいと思っております。

(副議長) それでは、あらためまして、新年、明けましておめでとうでございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。私は、広聴広報会議の座長という立場でもございますので、広聴広報について一言申し上げます。広報の取り組みは、「開かれた議会」を推進するうえで、最も重要な役割であると認識しています。県議会だよりや県議会新聞の発行、ホームページやフェイスブックの運営など、きめ細かな情報発信の積み重ねが重要であると思います。広聴の取り組みとしては、12月の定例記者会見でも申し上げましたが、「みえ現場 de 県議会」を2月7日実施いたします。テーマは、「コロナ禍からの復興に向けて」です。コロナ禍の中で、知恵と工夫を凝らし懸命に努力されている方々の意見を聞かせていただき、2年ぶりの開催でもあり、今後の議会での議論に生かしていきたいと考えております。また、今年は、「みえ高校生県議会」の開催年であり、8月22日の開催に向け、着々と準備を進めていきます。次代を担う高校生に議会に対する理解を深めていただくとともに、出された意見を、議会での議論に反映できればと思います。本年も、多くの県民の皆さまが、県議会の活動に関心を持っていただけるよう、広聴広報に取り組んでいきたいと思っておりますので、記者クラブの皆さまには、変わらずご協力をよろしくお願いいたします。私からは以上です。

(議長) 以上でございます。

2 質疑応答

○新型コロナウイルス感染症への対応について

(質問) 幹事社です。明けましておめでとうでございます。オミクロン株の話、先ほど議長のお話からもありましたけれども、今後また感染が広がっていく、隣の様子などを見ていると、そういった状況も想定される中で、細心の注意をもって議会運営とおっしゃってましたけれども、具体的にフェーズが上がったときを想定したときに、どういうふうに運営されていくのかというのをお聞きできればと思うんですが。

(議長) 県が行う新型コロナウイルス感染症対策が適切かつ迅速に遂行されるよう、今まで緊急会議等を開催して県の取り組みを確認し、そして関連補正予

算の先議を行うなど、これまで迅速な審議を務めてきたところでございます。今後も引き続きその状況に応じて、柔軟かつ迅速に対応していきたいと考えているんですけども、今ご質問ありますように、年明けからの急激な動きもございますので、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染については、今、広島、山口、沖縄県に対して、国によるまん延防止等の重点措置が発出されておりますし、本県においてもこういった現実といいたまいますかね、知事も確か6日と7日と8日に3日連続で記者会見をする中で、危機感を持って対応していくと。3日目は、防災服も着られて、お気持ちを表してみえるということでございましたけども、そういった「感染拡大防止アラート」が発動されて、第6波の認識っていうのが、少しずつ高まっているのかなと思っております。で、非常に3倍くらいの感染度合いというのを聞いておりますので、幹事社さんおっしゃったように、明日、明後日がどうなるか分からんというようなことも、この2、3日を見ていると増えたり減ったりではありますけども、今後を考えると、この18日の開会までさえも、いろんな変化が生じる可能性もあるかなと、こんなことも、このスピード、速さでいくと心配はしております。あらためて基本的な感染防止対策を徹底するとともに、議会の新型コロナウイルス感染症マニュアルに基づく対応を行っていきます。関連して、昨年末にいろいろ決めていただいたルールで、18日で一部戻すようなことの方角で進んでいますが、状況によっては、例えばまん防とか緊急事態宣言ということになってきますと、戻すのを少しまた考える必要があるのかな、その時には、皆さま方とかいろんな方に相談しながら、臨機応変に進めてまいりたいと思っております。

〇みえ高校生県議会について

(質問) ご担当が副議長になられるかもしれないんですけど、さっき出た高校生県議会って勉強のためにちょっともし教えていただければいいんですけど、これ、何年に一回やっていて、過去にも高校生の声が実際に県政に反映された例なんかもあるんでしょうか。

(副議長) そうですね、何回やってるのかな。

(事務局) 平成26年、28年、30年と、2年ごとに3回やってまいりました。そこからコロナで止まっておりまして、今度やりますと4回目になります。

(副議長) 回数は4回目ということで、2年ごとにやっています。質問に対して必ず常任委員長が答弁をするという形でやっています、その質問というのは当然委員会審議に生かされるというような形でやっています。本会議での質問でも、過去の議事録見ていただくと、高校生県議会でこういう議論があったと

いうことを本会議で取り上げていただいている議員さんも結構いますので、かなりそれを県政の中に生かしていくという形で、これまでは進められてきてますし、今回もそのようになるように準備していきたいと思っております。

(質問) 今年の場合によってはオンラインになるかもしれないけどもっていう感じなんですか。

(副議長) 今のところオンラインは考えてませんが、8月22日でちょっとまだ先ですから、状況によっては当然いろんな選択肢があるかと思えます。

○新型コロナウイルス感染症への対応について

(質問) 先ほど議長最後に、場合によっては戻す可能性もあるというご発言ありましたが、それは何を戻す。

(議長) 昨年の12月22日の代表者会議において、昨年末時点では感染状況が比較的落ち着いていたために、現在、議場で開催している全員協議会や予算決算常任委員会などの会議を、令和4年の定例会から、今まで議場を使ってましたけど、全員協議会室で開催する方向でご決定いただいたんですね。で、その方向で進んでいたんですけども、幹事社さんの質問があったとき言わせてもらったとおり、少し動きがあるので、そのとおりできるのか、それともしばらくそのままにするのかは考える必要があると、そういう意味で言わせていただきました。

(質問) 現段階では、直近でここ、全員協議会室に戻して全員協議会をしたというわけではないけれども、その決定を戻すという可能性も場合によってはあると。

(議長) そういうことです。

(質問) 直近の全員協議会は、本会議場でやってますか。

(議長) そうです。おそらく、予算決算常任委員会とかいろんな部分についてはここでしてと思いますので、今のところは、ここでやる方向でスタートをしたいと思っておりますが、それは先ほどもちょっと触れましたけども、まん延防止とか、そういうことになってきた時には、いわば会議の関係者が感染しないと限りませんので、そういった事態が起こった場合は、そのことも可能性があるということでございます。

(質問) 予算決算常任委員会は直近のもの、本会議場でやっておりますね。

(議長) そうです。

○今年の抱負について

(質問) 今年の冒頭の発言に絡んでのところですけども、去年は、一年を振り返る言葉として「凌(しのぐ)」という言葉で示していただいた。今年の抱負を一言で、事前に聞いてはなかったけど、あるんですか。

(議長) 打ち合わせも何もしていないのに何でわかるんですかっていうことでございますけど、気持ちとしてずっと今朝から、「凌」って書いたなど。で、凌いできたけども、しかし、その上を望んでいかんと、知事も積極果敢にいろんな形のことをされているということでございますので、私の気持ちとしては、これかなと。「機」は、「き」とか「はた」とかそういう文字ですけども、意味がいっぱいある。からくりとか仕掛けとか細かい仕組みなんかは、機関とか機器とか使いますよね。それから、要とか大事な部分っていう意味もありまして、例えば機軸とか、機密とかそういった意味で使われます。それから、兆しとかきっかけという意味もありまして、この場合は、例えば、機会とかチャンス、それから好機とかそういったところに使われるのかなと思います。あと、最後に書きましたけど、機転とか機動とか心機、これ心の働きにも大きく影響する言葉だと聞いておりますので、今回例に出しましたけど、まとめますと、機関という細かい仕組み、機軸という大事な部分、機会という兆しとかきっかけ、機転っていう心の働き、そして今もコロナの対応と、これから審議されますビジョン、プランなどの大事な部分もしっかりとやっていく必要がございますので、それはやはり臨機応変にするべきではないかなということで、その大きな柱をもってすると、この「機」がぴったりかなと思って、私の思いの文字にしました。以上です。

(質問) そうすると、昨今の状況とこれからの取り組みとその「機」という言葉にどういう思いを込めたかというのを簡単に一言。

(議長) 危機の「機」でもあるので、現状は認識せざるを得ないと思うんですけども、しかし、それだけ危機をどう突破して新しい年にふさわしい三重県にしていくかっていうこと、当然知事も考えていろんな発言されているわけですから、議会としても議会の立場からそれぞれの地域の方々のお声を、皆さん代表で出てもらってるわけですから、集約する形でこの行政展開方針なり、また

プランなり、ビジョンに反映できるような形で私もその役割を果たしていきたい、こういうことでございます。

○新型コロナウイルス感染状況の県の情報公開について

（質問）コロナの県の情報公開の姿勢について議長のご見解を伺いたいと思うんですけども、県が今年、年明けから市町村別の感染者の公表を一時的に止めたことがありました。報道側としては各地域ごとの感染状況がわからないと、その市民の方たちの危機意識も高まらないし、公表すべきじゃないかという立場でやりとりをする中で、県としての感染者が増えてきたのでという理由で、市町村別の公表は再開したわけですけども、議長としてその市町村別に感染者を公表することが、県民への情報発信として必要だと考えるか、それとも控えたほうがいいと思われるか、そこはどのようにお考えでしょうか。

（議長）なかなかこのタイミングのいい質問していただきましたけども、県の1月最初からの姿勢については私は致し方ないなと思ってます。結論的に言いますとね。年代とか市町を公表することで、この新しい形のオミクロンという部分については初めてなわけでございますので、感染者を特定されてしまったりとか、誹謗中傷の可能性があることから、今年に入ってから感染者情報に係る市町名を非公開にしばらくしています。7日までですかね。しておりましたが、感染者数が増加してきたこともございまして市町名を公表することになったと伺いました。それについては、確かに小さなコミュニティにおいては、あってはいいけません、また、あってはほしくないっていう気持ちもありますが、そういった誹謗中傷に繋がる可能性が考えられる以上は、県内においては誹謗中傷がある可能性が高いと判断されて市町名を非公開にされたとは私は想像しています。1月中から感染者数が急増したこともございまして市町名を公表されたことは、県民に自分の身近なところで感染しているという危機感を持っていただくためだと思いますし、状況に応じて的確にご判断されてるんじゃないかなと、私は今回のことについては致し方ないというか、これがよかったんじゃないかなと思っています。

（質問）その他よろしいですか。

○知事の年頭あいさつについて

（質問）もう1点だけ。知事の声を受け止めて、青木議長も年始の冒頭の抱負を述べていただいた上で、こういうことを言うのは恐縮ですけど、知事が年頭のあいさつで、配慮すべきは知事や議会、業界団体ではなくて、県民を軸に判断してほしいというようなあいさつを職員になされました。配慮すべきではな

いという対象に議会も入ったわけですけど、それについて議会の代表としてはどのように受け止められていますか。

(議長) 某新聞を読ませていただいただけなので、実際にその言葉を生で聞いたわけではございませんので、誤解があったら申し訳ないと思いますが、私の受け止め方としては、県民ファーストという気持ちを発信したく、知事はそういった表現をされたのではないかなと思っています。その記事によりますと、例に知事本人も入ってるし、それから議会も入ってるし、業界も入ってるという表現がございましたので、誤解を招いたら気の毒やなと思いつつも、僕の捉え方は、いわゆる一部の声の大きい方の顔色を見るのではないよと。そういう意味ではなくて、当然、県民の代表である議会の存在ということもきちんと大事にしてもらっていると思っています。そういうことで、私的なことで振り回されるのではなくて、やっぱり公のいわゆる例えば総意ですね、県民の総意の言葉についてはきちんと傾けていただけるのではないかなと、そのように僕は理解したんですけれども、あの記事のままですと誤解が生じる可能性があるなと心配はしておりました。

(質問) 記事で誤解を生むかどうかはともかくとして、副議長はどのように受け止め、議長と同じですか。

(副議長) 議長と同じで、もちろん議会というのは県民の代表でもありますし、県民の声でありますので、それを大事にしてほしいという知事の言われていることは当然、議会ももちろん県民の代表、県民の声だっていうふうに理解していいのかなと思っています。

(質問) 各議員も含めて、議会の総意としてそういう受けとめ方ということで捉えてよろしいですか。

(議長) 今、2人の発言の話でしょうか。そういった声も、この記事を読むと、そうやって取られがちかなと、ちょっとご心配の声をいただきましたけれども、しかし、知事としては県民は大事ということストレートに言ってみえるわけですから、それは大丈夫だろうということでございましたので、特に知事会見の内容を変更すべきとちゃうかとか、そういった厳しい意見が出ているわけではございません。

(質問) 分かりました。

(質問) 他はよろしいでしょうか。ありがとうございました。

(議長) お世話になりました。今年もよろしく願いいたします。機を見て、皆さん行動お願いいたします。ありがとうございます。

(以 上) 10時55分 終了